



△まっ赤に色付いた主力品種「佐藤錦」農家の方に伺ったところ、今年の出来について、味はよいが、実があまり大きくならず、色付きが今ひとつといった状況らしい。

サクランボシーズン到来!

六月下旬から、当町もサクランボの収穫時期を迎え、各地区の観光サクランボ園では、週末になると初夏の味覚を求めて多くの観光客が訪れています。また、最盛期で忙しい時期にもかかわらず、小さな子どもたちには鶴田の美味しいサクランボ



△中央保育所のサクランボ狩り・むなけん農園(葛蒲川)にて



△あやめ児童館の子どもたち・サクランボ童夢(葛蒲川)にて

を好きなだけ味わってもらおうと、農家の方のご好意でサクランボ狩りが各地区で行われました。どこの園地でも農家の方がおいしい実のなっている場所を子どもたちに教えてあげて、とてもほほえましい光景でした。管内の観光サクランボ園は、ほとんど七月二十日頃に終了するそうなので、今週末あたりがおいしいサクランボを食べる最後のチャンスかもしれません。



△こんなにももらったよ!ひなづる幼稚園サクランボ狩り・一戸サクランボ園(山道)にて

「がんばる農業者」オリジナルの箱を作りました

葛蒲川地区にサクランボ園地を営む今久志さん(35・元みどりの会長)は、今年新たに、園地の名前とオリジナルの絵が入った新しいデザインのパッケージを制作して、販売の拡大にチャレンジしています。

「デザインは、専門にやっている友人がいるので、頼んで安くやつてもらいました。今までにない高級な感じを出そうと赤と黒を基調に作ってくれました。この箱にはとても満足しています」とうれしそうに語ってくれました。

市場で、今さんのパッケージが回り、たくさんの方が鶴田に来てくれて、この箱を片手に帰って行ってくれることを願っています。今さんがんばってください!



△新デザインの箱に今年の販売を期待する今さん

「鶴の里あるじゃ」が八周年祭

六月十九日(金)から二十一日(日)までの三百間にわたり、町の産地直売所の拠点でもある、道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」が八周年を記念して「八周年祭」を開催しました。

開催期間中、県内各地より二万五千人の方が来場し、鶴田産「ふじりんご」や風船のプレゼント、朝市、五ツ太鼓など、さまざまなイベントを楽しみました。

また、入り口前の広場では、「津軽半島道の駅連発会」の六つの道の駅(浅虫温泉・なみおか・もりた・十三湖高原・こどもり・たいらだて)(※写真下)と一般の二十一家舗でテント村が開設され、各地から届けられた野菜や果物、鮮魚などを市場より安い価格



△オープニングセレモニーの様



△さまざまな特産品が販売されたテント村

で提供して、大盛況な八周年祭となりました。

「西北津軽産直の日」を開催

北五地方の産直施設が集まり、地元の新鮮な農水産物・加工品の販売を行います。西北地域で生産されたスイカ・メロンの試食(先着百名)もありますので、ぜひご来場ください。

◆日時 七月十九日(日)

午前八時三十分～午後二時

◆場所

道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」

◆主催

西北津軽産直ネットワーク協議会

◆問い合わせ先

西北地域県民局地域農林水産部

農業振興課

TEL(34) 21111

(内線251)